

## 自死の予防を実現するために必要な10の状態の関する取組みの評価（令和6年度）

## 1. 3つのレベル・10の状態の定性的自己評価一覧

自殺対策を推進するための本市の具体的な取組みについて、自死の予防を実現するために必要な状態（10の状態）ごとに分類した定性的自己評価を一覧表として掲載。

	計画策定時	令和6年度	自己評価（令和6年度）				
<b>（1）社会全体レベルに関連する取組み</b>							
状態1：自死の要因となり得る多様な問題に対応できる相談窓口や支援の体制が十分に整っていること	111事業	117事業	◎	○	△	×	—
			8.5%	90.6%	0%	0%	0.9%
状態2：自死の要因となり得る多様な問題に対する支援職員の能力が十分に高い状態が維持されていること	29事業	29事業	◎	○	△	×	—
			13.8%	86.2%	0%	0%	0%
状態3：自死の要因となり得る多様な問題に包括的・具体的に対応できる多機関ネットワークが構築され機能していること	33事業	34事業	◎	○	△	×	—
			11.8%	85.3%	0%	0%	2.9%
状態4：自死の要因となり得る悩みや困りごとが生じない環境が整っていること	14事業	14事業	◎	○	△	×	—
			0%	100%	0%	0%	0%
<b>（2）身近なコミュニティや対人関係レベルに関連する取組み</b>							
状態5：身近なコミュニティにおいて、自死の要因となり得る多様な問題に対する適切な理解が十分浸透すること	10事業	11事業	◎	○	△	×	—
			0%	100%	0%	0%	0%
状態6：様々な悩みや困りごとを抱えた人への適切なサポートや対応を学び、身近なコミュニティにおける危機対処能力が向上すること	21事業	22事業	◎	○	△	×	—
			0%	100%	0%	0%	0%
状態7：身近なコミュニティのメンバー同士の支え合いや同じ悩みを抱えた者の交流や分かち合いが促進されること	32事業	32事業	◎	○	△	×	—
			12.5%	87.5%	0%	0%	0%
<b>（3）個人レベルに関連する取組み</b>							
状態8：人を自死に追い込む差別等の社会的な問題や自分自身のセルフケア、健康維持（精神的、身体的）に関する適切な知識の習得や理解が促されること	13事業	12事業	◎	○	△	×	—
			0%	100%	0%	0%	0%
状態9：様々な悩みや困りごとに対応できる相談窓口に関する情報が届き、実際の活用が促されること	10事業	13事業	◎	○	△	×	—
			7.7%	92.3%	0%	0%	0%
状態10：人を自死に追い込む社会的な問題に対する対応方法の習得や実際の対処が促されること	13事業	13事業	◎	○	△	×	—
			7.7%	92.3%	0%	0%	0%

## 2. 3つのレベル・10の状態ごとの評価

### (1) 社会全体レベルに関連する取組み

状態1：自死の要因となり得る多様な問題に対応できる相談窓口や支援の体制が十分に整っていること

#### 主な取組み

- 暮らし支える総合相談の実施
- 仙台いのち支える LINE 相談の実施

#### 評価の内容

○事業数：

計画策定時
111 事業



令和6年度
117 事業

○自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
8.5%	90.6%	0%	0%	0.9%

※事業数は6事業増え、自己評価の割合は約9割が○と予定通り行うことができている。約1割は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

状態2：自死の要因となり得る多様な問題に対する支援職員の能力が十分に高い状態が維持されていること

#### 主な取組み

- 自殺未遂者等ハイリスク者支援研修の実施
- 心の健康対応力向上研修の実施

#### 評価の内容

○事業数：

計画策定時
29 事業



令和6年度
29 事業

○自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
13.8%	86.2%	0%	0%	0%

※事業数は変化ないが、自己評価の割合は約9割が○と予定通り行うことができている。残りの1割以上は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

### 状態3：自死の要因となり得る多様な問題に包括的・具体的に対応できる多機関ネットワークが構築され機能していること

#### 主な取組み

- 自殺対策推進センターを中心とした関係機関ネットワークの構築
- 労働分野の関係機関との官民協働プラットフォームの設置

#### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時
33 事業



令和6年度
34 事業

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
11.8%	85.3%	0%	0%	2.9%

※事業数は、1事業増えた。自己評価の割合は約9割が○と行うことができている。残りの1割以上は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

### 状態4：自死の要因となり得る悩みや困りごとが生じない環境が整っていること

#### 主な取組み

- 地域包括支援センターによる支援の実施
- がん患者の医療用ウィッグ購入への支援

#### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時
14 事業



令和6年度
14 事業

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
0%	100%	0%	0%	0%

※事業数は変化がないが、自己評価の割合は全て○と予定通り行うことができた。

## 社会全体レベルに関連する評価と今後の取組み

### 状態 1 :

- ・ こどもや若者、ひきこもり状態にある子や障害のある子を介護する高齢の親、ひきこもり者等への相談窓口が6事業増えたことで、より多様な悩みごとに対応した相談対応を行うことができた。

#### ▶今後の取組み

引き続き多様な悩みごとに対応できる相談窓口の設置や支援体制の強化を図る。

### 状態 2 :

- ・ オンラインやオンデマンド等による手法を活用することで、幅広いテーマについて多くの参加者の研修受講につながり、支援職員の能力向上のための研修等を実施することができた。

#### ▶今後の取組み

多様な問題に対応できるよう、支援職員の能力向上・能力維持のため、研修方法や実施回数を見直ししながら、人材育成の強化を図る。

### 状態 3 :

- ・ 多機関ネットワークについては、従来の自殺対策推進センターを中心とした若年層の自死予防ネットワークに加え、新たに労働分野の関係機関との官民協働プラットフォームを設置し、勤労者のネットワークの対策を強化した。

#### ▶今後の取組み

引き続き、事例検討や支援情報の共有などを通じて、地域の支援機関同士のつながりをより強めていく。また、多様な問題に包括的・具体的に対応できる多機関ネットワークが構築され機能できるように、事業を展開していく。

### 状態 4 :

- ・ 特に生活する上での悩みや困りごとが生じないように、行政や民生委員、地域の高齢者支援の拠点である地域包括支援センター等で、相談の実施が行われていると考えられる。

#### ▶今後の取組み

引き続き、悩みや困りごとが生じないように、相談から適切なサービス調整までを一体的に実施していく。

## (2) 身近なコミュニティや対人関係レベルに関連する取組み

状態5：身近なコミュニティにおいて、自死の要因となり得る多様な問題に対する適切な理解が十分浸透すること

### 主な取組み

- 企業等向けゲートキーパー養成研修の実施
- ひきこもりに関する理解促進活動の実施

### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時 10 事業	▶	令和6年度 11 事業
----------------	---	----------------

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
0%	100%	0%	0%	0%

※事業数は1事業増えた。自己評価の割合は全て○と予定通り行うことができた。

状態6：様々な悩みや困りごとを抱えた人への適切なサポートや対応を学び、身近なコミュニティにおける危機対処能力が向上すること

### 主な取組み

- 災害時メンタルヘルス研修の実施
- 大学向けの自死に関する適切な理解の普及啓発

### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時 21 事業	▶	令和6年度 22 事業
----------------	---	----------------

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
0%	100%	0%	0%	0%

※事業数は1事業増えた。自己評価の割合は、全て○と予定通り行うことができた。

## 状態7：身近なコミュニティのメンバー同士の支え合いや同じ悩みを抱えた者の交流や分かち合いが促進されること

### 主な取組み

- 被災者向けの健康教室や交流会の実施
- 障害者家族教室（家族の交流の場）の実施

### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時
32 事業



令和6年度
32 事業

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	—
12.5%	87.5%	0%	0%	0%

※事業数は変化なく、自己評価の割合は約9割が○と予定通り行うことができている。残りの1割以上は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

### 身近なコミュニティや対人関係レベルに関連する評価と今後の取組み

#### 状態5，6：

- ・従来の企業等向けゲートキーパー養成研修に加えて、新たに勤労者への自死予防の取組みとして、主に中小企業を対象とし、職場内での気づきを促すため、企業向けゲートキーパー養成研修を実施した。
- ・また、若年者を対象とした啓発については、大学生ボランティアサークルによる自死予防に関する啓発活動の他、新たに若年者向けゲートキーパー養成事業として、若年者に受け入れられやすい漫画を用いて心身の不調への気づきやサポートに関する啓発媒体を作成することができた。

#### ▶今後の取組み

特に、勤労者と若年者を対象とし、周囲の気づきを促しサポートや対応ができるよう研修を行う他、様々な媒体を利用し周知を図る。

#### 状態7：

- ・ひきこもり者、精神障害者家族教室や認知症高齢者等の家族教室や家族交流会、被災者向けの健康教室や交流会等により、お互いの経験や悩みを語り合うことで、心の負担を軽くする取り組みにつながっていると考えられる。

#### ▶今後の取組み

身近なコミュニティのメンバー同士の支え合いや同じ悩みを抱えた者の交流や分かち合いが促進されるように、引き続き事業を行う。また、不安や悩みを抱えている方を対象に、交流会や教室等について適切に周知も続けていく。

### (3) 個人レベルに関連する取組み

状態8：人を自死に追い込む差別等の社会的な問題や自分自身のセルフケア、健康維持（精神的、身体的）に関する適切な知識の習得や理解が促されること

#### 主な取組み

- 東日本大震災に関する相談窓口等に係る啓発活動の実施
- ホームページなどを活用した相談窓口の周知

#### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時 13事業	▶	令和6年度 12事業
---------------	---	---------------

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
0%	100%	0%	0%	0%

※事業数は1事業減ったが、自己評価の割合は全て○と予定通り行うことができた。

状態9：様々な悩みや困りごとに対応できる相談窓口に関する情報が届き、実際の活用が促されること

#### 主な取組み

- 自殺未遂者等ハイリスク者向けリーフレットによる啓発
- SNSを活用した相談窓口の普及啓発

#### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時 10事業	▶	令和6年度 13事業
---------------	---	---------------

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
7.7%	92.3%	0%	0%	0%

※事業数は3事業増えたが、自己評価の割合は約9割が○と予定通り行うことができた。残りの約1は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

## 状態 10：人を自死に追い込む社会的な問題に対する対応方法の習得や実際の対処が促されること

### 主な取組み

- 地区健康教育（健康問題・健康保持に関する理解促進）の実施
- アルコール・薬物問題に関する普及啓発活動の実施

### 評価の内容

- 事業数：

計画策定時
13 事業



令和 6 年度
13 事業

- 自己評価の割合：

◎	○	△	×	－
7.7%	92.3%	0%	0%	0%

※事業数は変化ないが、自己評価の割合は約 9 割が○と予定通り行うことができた。残りの約 1 は◎と予定を上回り事業を実施することができた。

### 個人レベルに関連する評価と今後の取組み

#### 状態 8：

- ・各事業でリーフレットの配布やホームページを活用し、理解促進や啓発活動を実施することができた。

#### ▶今後の取組み

引き続き人を自死に追い込む差別等の社会的な問題や自分自身のセルフケア、健康維持（精神的、身体的）に関する適切な知識の習得や理解が促されるよう、意識啓発及び情報提供を行う。

#### 状態 9：

- ・啓発については、従来より実施している自殺未遂者へのリーフレット活用の他、新たにひきこもり者向けの情報誌やポータルサイト等の情報発信を行った。

#### ▶今後の取組み

多様な悩みや困りごとに対応できる相談窓口に関する情報が届き、実際の活用が促されるように、様々な媒体等を通じて、困難を抱える方への情報発信に取り組む。

#### 状態 10：

- ・地区健康教育等を実施し、生活習慣病予防や健康づくり等について、地域に積極的に働きかけ健康教育を実施することができた。また、市民医学講座を合計 6 回開催するとともに、講座の動画をせんだい Tube へ掲載することで、幅広い市民に普及啓発を行うことができた。

#### ▶今後の取組み

社会的な問題に対する対応方法の習得や実際の対処が促されるように、引き続き事業を展開し理解促進を図る。